

倉吉市週休2日工事実施要領

1 趣旨

建設産業において、就業者の高齢化と担い手不足が進行する中、将来にわたり安定的に社会資本を整備及び維持していくためには、若手技術者等の確保・育成が重要な課題となっており、対応策の一つとして、週休2日の確保による建設現場の就労環境の改善が求められている。

本要領は、倉吉市発注の建設工事における週休2日工事の実施に必要な事項を定めるものとする。

2 定義

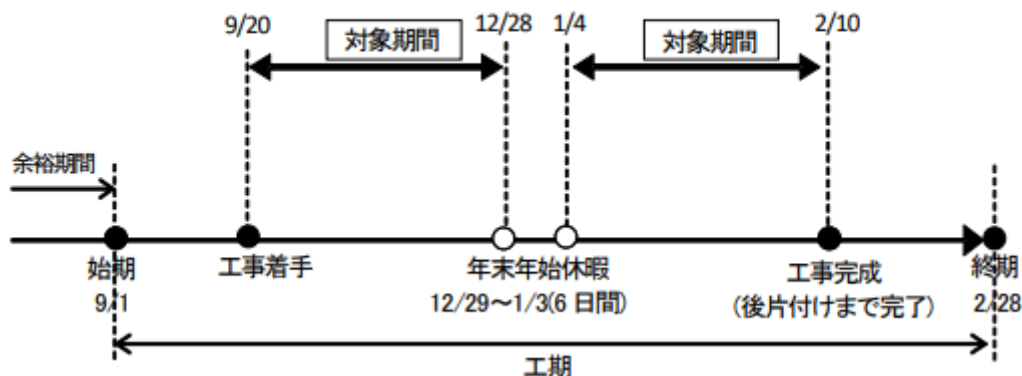
- (1)現場閉所：巡回パトロールや保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での事務作業を含めて1日を通して現場や現場事務所が閉所された状態をいう。
- (2)月単位の週休2日：対象期間内の全ての月毎に、現場閉所日数の割合（以下「現場閉所率」という。）が、4週8休（28.5%（8日/28日））以上、確保されていることをいう。ただし、暦上の土曜日・日曜日の閉所で28.5%に満たない月は、その月の土曜日・日曜日の合計日数以上の現場閉所を行ってれば、28.5%以上を達成しているものとみなす。
- (3)通期の週休2日：対象期間内の現場閉所率が、4週8休（28.5%（8日/28日））以上、確保されていることをいう。

3 実施方法

- (1)倉吉市が発注する全ての工事を対象とする。ただし、発注者が週休2日工事として相応しくないと判断したものは対象としない。
なお、災害対応等のやむを得ない事情により、現場閉所による週休2日の対象外とする期間がある場合は、現場説明書に対象外とする作業と期間を明示すること。
- (2)発注者は、週休2日工事の実施に当たって、「週休2日工事」である旨を現場説明書に明示すること。
- (3)発注者は、土曜日及び日曜日、国民の祝日並びに年末年始及び夏季休暇を現場閉所日（以下「休工期」という。）とすることを前提とした標準工期算定式により工期を設定すること。
- (4)週休2日工事の対象期間は、工事着手日から工事完成日（後片付け期間含む）までとし、余裕期間、年末年始6日間、夏季休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象

外としている期間、受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間などは対象外とする。

【例】工期が始期9/1～終期2/28の工事の場合



- (5) 受注者は、週休2日工事の対象期間において、月単位の週休2日の確保に努めること。月単位の週休2日が確保できない場合、通期の週休2日の確保に努めること。なお、天候等により現場閉所した場合も、現場閉所日に含める。
- (6) 受注者は、社会的要請や現場条件の制約等により現場閉所を行うことが困難となった場合は、速やかに発注者と協議すること。
- (7) 受発注者双方は、工事途中に条件変更等に伴う工期延伸を要する場合は速やかに工期延伸の協議を行い、受注者は見直し工事工程表を作成、提出し、発注者と共有すること。

4 実施確認

受注者は、現場閉所の実績が確認できる資料（別紙「週休2日工事休日等取得実績書（参考様式）」参照）を工期末の14日前までに提出すること。

なお、書類の作成負担等を考慮し、現場閉所の実績が確認できる資料の根拠資料（現場閉所実績が確認できる工程表、休日等の作業連絡記録、安全教育・訓練等の記録資料等）の提出は不要とし、監督員から求められた場合に提示すること。

5 積算方法等

発注者は、国土交通省等が定める、月単位の週休2日の補正係数を、各経費に乗じた上で発注を行うこと。ただし、月単位の週休2日の補正係数が無い工種の場合は、通期の週休2日の補正係数を、各経費に乗じた上で発注を行うこと。

現場閉所の実績が確認できる資料により、月単位の週休2日に満たない場合、通期の週休2日の補正係数に変更し、請負代金額の減額変更を行うこと。ただし、月単位の週休2日の補正係数が無い工種の場合で通期の週休2日に満たないときは、精算時に現場の閉所状況（累計休工日率）に応じて、請負代金額の減額変更を行う

こと。

通期の週休2日に満たない場合は、月単位の週休2日の補正係数を除し、請負代金額の減額変更を行うこと。ただし、月単位の週休2日の補正係数が無い工種の場合を除く。

6 その他

週休2日工事において、月単位の週休2日又は通期の週休2日が達成できなかったとしても、工事成績の減点等（ペナルティ）は行わない。

附 則

この要領は令和5年4月1日から施行する。

附 則

この要領は令和6年5月10日から施行する。